

第七條 文書圖書ヲ印刷スル者ハ其發行ト否トヲ問ハス印刷ノ年月日
及印刷者ノ氏名住所ヲ記載シ其發行ニ係ルモノハ發行者ノ氏名住所
ヲ併セテ記載スヘシ

第八條 社則塾則引札諸藝ノ番付普通ノ書試アル諸種ノ用紙又ハ證書
ノ類ハ第三條第六條ニ據ルヲ要セズ

第九條 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度第三條ノ手
續ヲ爲スヘシ但雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省
略スルコトヲ得

第十條 一タヒ出版屆ヲ爲シタル文書圖書ノ再版ハ出版屆ヲ要セスト
雖モ若シ改正増減シ又ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘタルモノハ仍ホ第三
條ニ依ルヘシ

第十一條 演說若クハ講義ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲ストキハ演說者若
クハ講義者ヲ以テ著作者トス但演說者若クハ講義者ノ許諾ヲ經スシ

テ出版シタルモノニ關シテハ其演說者若クハ講義者ハ著作ノ責ニ任
セズ

他人ノ講義又ハ公然ナラサル演說ハ其講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經
ルニ非レバ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但本項ニ違フ者ハ版權條例
ニ依リ其實ニ任セシム

第十二條 數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲
スモノハ編纂者ヲ著作者ト見做スヘシ

前條第一項ノ但書及第二項ハ本條ニ適用スヘシ

第十三條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ但翻譯トハ漢文ヲ
延譯スルモノヲモ包含ス

第十四條 學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書
ハ其出版屆ヲナス者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ

第十五條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ

得ルニ非サレハ詳略ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス
官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス
之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十六條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ
出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印本ヲ
差押ユルコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風
俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其文書圖書ノ内國ニ於
ケル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フルコトヲ得

第十八條 軍事ノ機密ニ關スル事項ヲ記載スル文書圖書ヲ出版スルコ
トヲ得ス

第十九條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ
之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ出版スルコトヲ得
ス

刑事被告人又ハ刑事ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニス
ル文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十一條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五
圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 發行者自己ノ氏名住所又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ出版ノ
年月日ヲ記載セサル文書圖書ヲ發行シタルトキハ貳圓以上五拾圓以
下ノ罰金ニ處シ其之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサルモノハ一月以上六
月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ヲ犯ス者罰前項ニ同シ

第二十三條 印刷者其氏名住所ヲ其印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セス
若クハ記載スト雖モ實ヲ以テセサルモノハ罰前條ニ同シ

第二十四條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ文書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者印刷者共犯ヲ以テ論シ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

圖書ニシテ其目的前項ニ同キモノハ罰前項ニ同シ

第二十五條 猥褻ノ文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 文書圖書ヲ寫真トナシ因テ第十八條第二十四條第二十五條ヲ犯ス者ハ各本條ニ依テ處分ス

第二十七條 本條例ニ依リ出版ヲ禁ゼラレタル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ貳拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

其發賣頒布ヲ禁ゼラレタル文書圖書ヲ發賣頒布スルトキハ發行者又

ハ發賣頒布者罰前項ニ同シ但其未タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

第二十八條 第二十四條第二十五條第二十七條ノ場合ニ於テ刻版及印

本ハ檢察官ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得差押フル所ノ刻版及印

本ハ裁判ノ確定ヲ待テ無罪ナレハ本主ニ還付シ有罪ナレハ沒收ス

第二十九條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押ノヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十條 他人ノ講義演說ヲ筆記若クハ編纂シ又ハ他人ノ著作ヲ編纂シタル文書圖書ヲ出版シ第二十四條第二十五條ヲ犯シタル場合ニ於テ講義者演說者若クハ著作者ニシテ其出版ヲ承諾シタルモノナルトキハ筆記者若クハ編纂者ト同シク其罪ヲ論ス

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テ

ス專ヲ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スル
コトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免
ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱
發ノ例ヲ用井ス

第三十三條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メ
ラレタル文書圖書ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布
セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十四條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直チニ發賣頒布セスト雖モ其
目的發賣頒布ニ在ル者ハ總テ此條例ニ依ル

第三 版權條例

朕版權條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年十二月二十八日

內閣總理大臣 伯爵伊藤博文
內務大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

勅令第七十七號

版權條例

第一條 凡ソ文書圖書ヲ出版シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ
版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其文書圖書ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ

第二條 出版條例ニ依リ文書圖書ヲ出版スル者ハ總テ此條例ニ依リ其
版權ノ保護ヲ受ルコトヲ得

第三條 版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前製本六部ノ定價ヲ添ヘ
版權登錄ヲ內務省ニ願出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版シ版權ノ登録ヲ得ント欲スルトキハ其由ヲ内務省ニ通知スヘシ

第五條 版權登録ノ文書圖書ニハ其保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登録ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内務省ニ於テハ版權登録簿ヲ備ヘ置キ登録ノ願出アル毎ニ之ヲ登録シ登録證書ヲ下付スヘシ

登録ヲ經タル文書圖書ハ内務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ

第七條 版權ハ著作者ニ屬シ著作者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

講義若クハ演説ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲シタルモノ、版權ハ講義者若クハ演説者ニ屬シ若シ筆記者ニ於テ講義者若クハ演説者ノ許諾ヲ經テ出版スルトキハ筆記者ニ屬シ筆記者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

官廳學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ版權ハ其官廳學校等ニ屬スルモノトス

數人ノ著作若クハ數人ノ講義演説ヲ編纂シタル文書圖書ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但編纂者ト原著作者講義者演説者又ハ其相續者トノ關係ハ相互ノ約束ニ依ル

第八條 版權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第九條 版權登録證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其再度下付ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但手数料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ

第十條 版權保護ノ年限ハ著作者ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若シ版權登録ノ月ヨリ死亡ノ月マテヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍ホ三十

五年ニ足ラサル時ハ版權登録ノ月ヨリ三十五年トス
數人ノ合著ニ係ルモノ、版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計
算ス

官廳又ハ學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書
並著作者死亡ノ後ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ版權登録ノ月ヨ
リ計算シ三十五年トス

第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ各號毎ニ
其出版ノ月ヨリ起算ス但其都度第三條ノ手續ヲナスヘシ
雜誌ノ類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコ
トヲ得

第十二條 版權ノ保護ハ其文書圖書ヲ改正増減シ又ハ註解附録繪圖等
ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲メ變更スルコト
ナカルヘシ

第十三條 特ニ世ニ有益ナル文書圖書ニシテ版權年限間ノ利益其著作
出版ノ勞カト費用トヲ償ハサルノ事情アルモノニハ版權所有者ノ願
出ニ依リ內務大臣ニ於テ仍ホ十年間版權保護ノ期限ヲ延ハスコトア
ルヘシ

第十四條 文書圖書ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其版權相續
者ヲキコトヲ確信シ之ヲ出版セント欲スルトキハ其由ヲ官報及東京
ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並其所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣
告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ版權相續者ノ出テサルトキハ內務
大臣ノ許可ヲ受テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得
著作又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ
亦前項ノ手續ニヨリ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條 新聞紙又ハ雜誌ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說記事
又ハ小説ハ其編輯者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ刊行ノ月ヨリ二年内

ニ之ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲シ出版スルコトヲ得ス
其二年ヲ經ルト雖モ已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原
文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條 版權所有ノ文書圖書ヲ僞版シタル者ハ其版權所有者ニ對シ
損害賠償ノ責ニ任ズヘシ其寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條 僞版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ
假ニ其發賣頒布ヲ差止ムルコトヲ得但審理ノ末僞版ニアラスト判決
セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任
ズヘシ

第十八條 僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ僞版者ノ相續者ニ及フモノト
ス

第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖書ヲ翻譯シ
増減シ註解附録繪圖等ヲ加ヘ若クハ其未タ完結セサル部分ヲ續成シ

テ出版スル者及本條例第十五條ニ違フ者ハ僞版ヲ以テ論ス
他人ノ講義又ハ演說ヲ筆記シ其許諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ
同シ

第二十條 翻譯書ノ版權ハ其翻譯者ニ屬スト雖モ其原書ニ就キ別ニ翻
譯スル者ニ向ヒ僞版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但其既ニ出版スル所ノ翻
譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此限ニアラス

第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲メ故ラニ版權所有ノ文書圖書ノ題號ヲ
冒シ或ハ摸擬シ又ハ氏名社號屋號等ノ類似シタル者ヲ濫合シテ他人
ノ版權ヲ妨害スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十二條 著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文
書圖書ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖書ヲ翻刻スル者亦僞版ヲ以テ論ス
第二十三條 文書圖書ヲ寫眞ト爲シ因テ其版權ヲ犯ス者ハ僞版ヲ以テ
論ス

第二十四條 内國ニテ版權所有ノ文書圖書ヲ外國ニ於テ偽版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十五條 偽版ノ訴アリテ其偽版タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條 偽版ニ關スル損害賠償ノ責ハ其原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

第二十七條 偽版者及情ヲ知ルノ印刷者販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若クハ貳拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

偽版ニ係ル刻版及印本ハ其何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收シ其既ニ販賣シタルモノハ其賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖書ト雖モ之ヲ改竄シテ著作家ノ

意ヲ害シ又ハ其表題ヲ改メ又ハ著作家ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但著作家又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十九條 第三條ノ手續ヲナサスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖書ヲ出版スル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖書ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十二條 現行ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル版權ノ年限ハ現行條例ニ據リ計算スルモノトス

第四 脚本樂譜條例

朕脚本樂譜條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年十二月二十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

勅令第七十八號

脚本樂譜條例

第一條 演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ據リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得

第二條 演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權(即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權)ヲ併セ有スルコ

トヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ

第三條 演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第四條 演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ

第五條 興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

第五 寫眞版權條例

朕寫眞版權條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年十二月二十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

勅令第七十九號

寫真版權條例

第一條 凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他物象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫眞ト云ヒ寫眞ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫眞版權ト云フ

第二條 寫眞版權ハ寫眞師ニ屬シ寫眞師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但他人ノ囑託ニ係ルモノ、寫眞版權ハ囑託者ニ屬シ囑託者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス囑託ニ係ル寫眞ノ種板ニシテ現存スルモノハ版權所有者ニ於テ之ヲ

寫眞師ヨリ受取ルコトヲ得ルモノトス

第三條 寫眞版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前寫眞一版ニ付見本二葉及六葉ノ定價ヲ添へ版權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ但人物ノ寫眞ハ登錄ヲ待タスシテ其保護ヲ受クルモノトス

第四條 版權登錄ノ寫眞ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第五條 内務省ニ於テハ寫眞版權登錄簿ヲ備へ置キ登錄ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ
寫眞版權登錄證書ノ取扱ハ總テ文書圖書ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス

第六條 寫眞版權保護ノ年限ハ登錄ノ月ヨリ十年トス

第七條 寫眞版權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ

得

第八條 版權ノ保護ヲ受ル寫眞ハ之ヲ覆寫シ若クハ機械又ハ會密ノ作
用ニヨリ多數ヲ増製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫眞術ト類似ノ撰寫ヲ爲シ
及寫眞師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受スシテ囑託ニ係ル寫眞
ヲ増製スルコトヲ得ス

第九條 第三條ノ手續ヲナサスシテ版權登錄ヲ詐稱シタル者ハ貳圓以
上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ僞版ヲ以テ論シ貳拾圓以上
貳百圓以下ノ罰金ニ處シ及損害賠償ノ責ニ任セシム
損害賠償ノ責ハ其原寫眞ノ版權年限終ルノ後一年ヲ以テ期滿得免ノ
期トス

第十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレタ
ル寫眞又ハ撰寫物作爲ノ時ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ發賣

シタル時ヨリ起算ス

第十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發
ノ例ヲ用非ス

第六 新聞紙ニ關スル諸屆書式

內務省告示第一號

新聞紙ニ關スル諸屆書式左ノ通相定ム

明治二十一年一月二十六日

內務大臣伯喬山縣有朋

發行屆書式 (但用紙美濃紙以下之ニ同シ)

何新聞(雜誌)發行屆

一 題號

何新聞

一 記載ノ種類

政治、法律、農工商業等ノ類

一 發行ノ時期

毎日、每週、每月何回、一箇年何回ノ類

一 發行所 府縣國郡區町村番地何社社號ナキモハ社主ノ氏名

同

一 發行人

住所

氏

名

何年何月生本月何年何箇月

一 編輯人

同

氏

名

何年何月生本月何年何箇月

各部門ニ主任編輯人ヲ設クルトキハ茲ニ列記スヘシ

同

一 印刷人

氏

名

何年何月生本月何年何箇月

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候ニ付保證金何圓(若クハ國預リ手形ヲ以テ)管轄廳へ納置候間此段御届申上候也
(公債證書)
(保證金ヲ納ムルニ及ハサルモノ、例ハ左ノ如シ)

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候間此段御届申上候也
年月日 發行人 氏 名印

內務大臣某殿

題號變更届書式

何新聞改題届

何新聞改題

一 何新聞

右年月日ヨリ改題候間此段御届申上候也

年月日

發行人

氏

名印

內務大臣某殿

種類變更届書式

何新聞記載ノ種類變更届

一 現今種類

政治法律農工商業其他何々

一變更種類

何々

右年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納メス發行シタルモノ更ニ保證金ヲ要スル種類ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ)

右年月日ヨリ變更致候ニ付保證金何圓(若クハ國立銀行ノヲ以テ)管轄廳

〜納置候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納メ發行シタルモノ更ニ保證金ヲ要セサル種類ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ)

右年月日ヨリ變更致候ニ付是迄納置候保證金御下渡之儀ハ管轄廳
可申出候間此段御届申上候也

年月日

發行人 氏

名印

内務大臣某殿

發行人變更届書式

何新聞發行人變更届

何新聞是迄何誰發行人ニ候處年月日ヨリ何誰ニ於テ新聞紙條例ヲ違

守シ發行致候ニ付此段御届申上候也

(發行人死去シ又ハ法律上資格ヲ失ヒタルモノ、例ハ左ノ如シ)

何新聞是迄何誰發行人ニ候處何月何日死去(若クハ法律上ノ資格ヲ失ヒ候ニ付何誰假發行人ノ名義ヲ以テ引續發行致居候處年月日ヨリ何誰ニ於テ以下前例ニ同シ)

年月日

舊發行人 氏

名印

(發行人死去ノトキハ其遺族親戚等ト新發行人ト進啓ス)

住所

新發行人 氏

名印

内務大臣某殿

編輯人印刷人變更届書式

何新聞編輯人(又ハ印刷人)變更届

舊編輯人(又ハ舊印刷人) 氏名

住所

新編輯人(又ハ新印刷人) 氏名

何年何月生本月何年何箇月

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年月日

發行人 氏

名印

内務大臣某殿

時期變更届書式

何新聞發行時期變更届

一何年何月何日發行第何號マテハ隔日 若クハ毎月一回 又ハ何々

一何年何月何日發行第何號ヨリ改メ毎日 若クハ毎週 又ハ何々

右之通變更致候間此段御届申上候也

年月日

發行人 氏

名印

内務大臣某殿

發行所變更届書式 印刷所變更届書式モ亦本例ニ依ル

何新聞發行所變更届

一舊發行所

何社 社號ナキモノハ戸主ノ氏名

府縣國郡區町村番地

一新發行所

何社 社號ナキモノハ戸主ノ氏名

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年月日

發行人 氏

名印

内務大臣某殿

第七 出版版權脚本樂譜寫真版權願届手續

明治二十五年三月内務省第三號ヲ以テ改正ス

内務省令第一號

出版條例版權條例脚本樂譜條例並寫真版權條例ニ關スル願届手續等左

ノ通之ヲ定ム

明治二十一年一月二十四日

内務大臣伯備山縣有朋

第一條 凡願屆書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ内務大臣宛ニテ差出ス可シ

第二條 凡文書圖書ヲ印刷スル者ハ出版條例第七條ニ從ヒ其印刷竣功ノ年月日並住所氏名ヲ記載シ其之ヲ發行スル者ハ同條例第三條ニ從ヒ届出ノ年月日並其住所氏名ヲ記載ス可シ

第三條 出版届ハ第一書式再(三)版届ハ第二書式版權登錄願ハ第三書式寫真版權登錄願ハ第四書式版權登錄證再度下付願ハ第五書式ニ依ル可シ

第四條 專ヲ學術技藝ノ雜誌ニシテ出版條例第二條但書ニ從ヒ同條例ニ依ラント欲スル者並第九條但書ニ依リ届出ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第六書式ニ依ル可シ

第五條 版權條例第十一條第二項ニ依リ版權登錄願ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第七書式ニ依リ豫メ二回以上出版ノ分隨意取束手版權登錄ヲ願出ルコトヲ得

第六條 外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ原書ノ題名著者ノ氏名出版ノ地名及年號ヲ原字ヲ以テ認メ届書ニ添付ス可シ

第七條 版權登錄願ヲ許可スルトキハ第八書式寫真版權登錄願ヲ許可スルトキハ第九書式ノ證書ヲ下付ス可シ但毀損紛失等ニ依リ再度下付スルモノハ本證書ノ謄本ニ其事由並下付ノ年月日ヲ裏書シ内務省ノ印ヲ捺ス

第一書式 (用紙美濃)

出版御届

一書名

全何冊(枚) (又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚) 自第何號 至第何號)

右何誰著述(編纂演說講義翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニテ今般

出版候條製本三部相添此段御届申上候也

道廳何府何郡何町何番地

發行者 氏 名印

同上

著作者(相續者) 氏 名印

內務大臣(爵)何誰殿

第二書式 (用紙同上)

再版御届

一書名 全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚) (自第何號至第何號)

右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)ノ書ニシテ何年何月何日出版セシ處改正(増減、註解、附録、繪圖等)相加ヘ今般再(三)版候條製本三部相添此段御届申上候也

道廳何府何郡何町何番地

年月日

發行者 氏 名印

同上

著作者(相續者) 氏 名印

內務大臣(爵)何誰殿

第三書式 (用紙同上)

版權登錄願

一書名 全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚) (自第何號至第何號) 一部定價金何圓錢

此登錄料製本六部ノ定價金何圓錢

印紙 印紙 印紙

右今般(何年月日)出版候條版權登錄被下度此段相願候也

廳何府何市區何町何番地

版權所有者 氏 名印

內務大臣(爵)何誰殿

第四書式 (用紙同上)

寫真版權登錄願

一 物象ノ名 何枚 一葉ノ定價金何圓錢

此登錄料寫真六葉ノ定價金何圓錢

印紙 印紙 印紙

右何々ノ眞形ヲ寫シタルモノニテ今般發行致候條版權登錄被下度見
本二葉相添此段相願候也

廳何府何市區何町何番地
縣何郡何村

版權所有者 氏

名印

年月日

內務大臣(爵)何誰殿

第五書式 (用紙同上)

(寫真)版權登錄證謄本下付願

一 書名 (物象ノ名)

此手数料金五拾錢

印紙

右何年月日版權登錄相成候處何々ニ依リ毀損(紛失)候條版權登錄證謄
本御下付被下度此段相願候也

廳何府何市區何町何番地
縣何郡何村

版權所有者 氏

名印

年月日

內務大臣(爵)何誰殿

第六書式 (用紙同上)

學術(技藝)雜誌出版條例ニ依リ出版(並手續省略)願

一 書名

右專ラ何々ノ學術(技藝)ニ關スル事項ヲ記載シ毎月何回(又ハ何々ノ日
ヲ以テ)發行致スヘキモノニ候處出版條例ニ依リ出版致シ且同條例第
三條ノ日限ニ不拘其出版ノ都度御届ニ不及發行前製本ノニ相納候様
致度此段相願候也

年月日

道廳何縣何郡何町何番地

發行者 氏 名印

同上

編輯者 氏 名印

內務大臣(爵)何誰殿

第七書式 (用紙同上)

學術(技藝)雜誌版權登錄手續省略願

一書名 一部ノ定價金何圓錢

此登錄料製本(各號)六部ノ定價金何圓錢

印紙 印紙 印紙

右何年月日出版條例ニ依リ出版ノ許可ヲ得候處第何號一冊(自第何號至第何號何冊分一時)版權登錄被下度此段相願候也

應何府何市區何町何番地
應何縣何郡何村何番地

年月日

編輯者 氏 名印

內務大臣(爵)何誰殿

第八書式

同上謄本裏書書式

△印ハ朱

版權登錄之證

割印

書名 何冊

著作者 氏名

版權所有者 氏名

右第 號ヲ以テ版權登錄簿ニ登錄ス

明治年月日

內務省 印

本證書毀損(紛失)再度下付願出ニ依リ此謄

本ヲ下付ス

割印

明治年月日

內務省 印

但謄本ハ表面省名ノ下ニ押印セヌ

第九書式

同上謄本裏書書式

寫眞版權登錄之證

物象ノ名 何 枚

版權所有者 氏 名

右第 號ヲ以テ寫眞版權登錄簿ニ登錄ス

明治 年 月 日

内務省 印

本證書毀損(紛失)再度下付願出ニ依リ此謄本ヲ下付ス

明治 年 月 日

内務省 印

但謄本ハ表面省名ノ下ニ押印セス

第八 出版條例施行前出版届出ヲナシ爾後出

版ニ係ル届書式

内務省告示第二號

明治二十年勅令第七十六號出版條例施行以前出版届出ヲナシ爾後出版スルモノハ更ニ同條例第三條ノ届出ヲナス可キ筈ニ付右届出ハ本年内務省令第一號第三條ノ書式ニ依ル可シ

明治二十一年三月十九日

内務大臣伯喬山縣有朋

第九 舊出版條例ニ依ル版權免許

(明治二十五年三月内務省令第三號ヲ以テ改正ス)

内務省令第三號

第一條 舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得タル者其免許狀ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ其事由ヲ記シ證明書ノ下付ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但手数料トシテ金五拾錢ヲ同省ニ納ム可シ

第二條 舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得未タ出版セサル圖書ニシテ自
今出版ノモノハ其製本ニ何年月日版權免許ト記載シ改正出版條例第
三條ニ依リ届出ヲナスト同時ニ舊出版條例第二十條ノ免許料ヲ内務
省ニ納ムヘシ

明治二十一年四月二日

内務大臣伯喬山縣有朋

第十 版權免許料等ニ登記印紙ヲ以テ納ムル件

内務省令第一號

明治二十五年四月一日ヨリ左ノ種目ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘ
シ

- 醫術開業免狀手数料
- 醫術開業免狀書換手数料
- 藥劑師免狀手数料
- 藥劑師免狀書換手数料
- 藥品其他検査手数料
- 藥品其他再検査手数料

版權登録料

版權免許料舊出版條例に依り版權免
許を得たるものに係る

版權登録證再度下付手数料

版權免許證明書下付手数料

右種目ノ内版權登録料ニ限リ先ツ版權登録願書ノミヲ差出シ庶務局ノ
通知ヲ得タル後更ニ其願書ニ登記印紙ヲ貼用シテ差出スコトヲ得

明治二十五年三月十一日

内務大臣子爵品川彌二郎

第十一 第三種郵便物認可規則

遞信省令第四號

第三種郵便物認可規則左ノ通相定ム

明治二十五年二月五日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

第三種郵便物認可規則

第一條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケントスル定時印刷物ノ發行人ハ全
部印刷シタル見本一部ヲ添へ願書ニ左記ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 題號
 - 二 記載事項ノ性質種類
 - 三 發行ノ定日
 - 四 發行所
 - 五 發行人(官廳會社學校協會等ハ其代表人)ノ居所氏名
- 本條ノ規定ニ遵由セサル願書ハ之ヲ受理セス
- 第二條 前條ノ發行人ハ其印刷物ニ付文書ヲ以テ左記ノ諸件ヲ證明スヘシ
- 一 毎月一回以上逐號定期發行スルコト
 - 二 記載事項ノ性質終期ヲ豫定ス可ラサルコト
 - 三 書籍ノ性質ヲ有セサルコト
 - 四 發行ノ目的政事時事學術商事工藝其他公共ノ性質アル事項ヲ報道論議スルニ在ルコト及廣ク之ヲ公衆ニ發賣スルコト

- 本條ノ證明ヲ爲サ、ル印刷物ハ第三種郵便物トシテ之ヲ認可セス
- 第三條 認可ヲ受ケタル定時印刷物ニハ其題號、番號、認可及發行ノ年月日、遞信省認可ノ文字ヲ見易キ場所ニ印刷スヘシ
- 第四條 認可ヲ受ケタル定時印刷物ニ左記ノ異動ヲ生スルトキハ發行人(代表人)ヨリ七日以内ニ届出ツヘシ
- 一 題號、紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類、發行所又ハ發行定日ヲ變更シタルトキ
 - 但紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類ヲ變更シタルトキハ見本一部ヲ差出ス可シ又發行所ヲ變更シタルトキハ舊發行所ヲ記載スヘシ
 - 二 發行人轉居又ハ變更ノトキ
 - 但變更ノトキハ舊發行人ノ氏名ヲモ記載スヘシ
 - 三 廢刊、又ハ發行禁止ノトキ

四 第二條各項ノ中ニ異動アリタルトキ

第五條 認可ヲ受ケタル定時印刷物ニシテ前條各項ノ異動ニ依リ第二條各項ノ條件ノ一ヲ闕クニ至リタルトキハ其認可ノ效ヲ失フ認可ノ效ヲ失ヒタル印刷物ハ認可ヲ得サルモノト見做ス

第六條 第四條ノ届出ヲ期限内ニ爲サ、ル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第七條 本令發布ノ日以前ニ第三種郵便物トシテ認可ヲ受ケタル定時印刷物發行人(代表人)ハ本令第一條及第二條ニ依リ明治二十五年三月三十一日迄ニ更ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ從前ノ認可ハ該日限ヲ以テ其效ヲ失フ

第十二 集會及政社法

朕集會及政社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十五日

內閣總理大臣伯爵山縣有朋

內務大臣伯爵西鄉從道

法律第五十三號

集會及政社法

第一條 此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ
政社ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハス政治ニ關ル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會四十八時以前ニ會場所在地ヘ

管轄警察官署ニ届出ヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其領收證ヲ交付スヘシ

届書ニハ集會ノ場所年月日時並ニ發起人及講談論議者ノ氏名住所年

齡ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

届書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セサルトキハ届出ノ

効ヲ失フモノトス

第三條 日本臣民ニシテ公權ヲ有スル成年ノ男子ニアラサレハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第四條 現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察官官立公立私立學校ノ教員學生生徒未成年者及女子ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得ス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前三十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者

ニ限リ本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第五條 政談集會ニ於テハ外國人ヲシテ講談論議者タラシムルコトヲ得ス

第六條 政談集會ハ屋外ニ於テ開クコトヲ得ス

第七條 凡ソ屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ又ハ多衆運動セントスルトキハ發起人ヨリ四十八時以前ニ會同スヘキ場所年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ但シ祭葬講社學生生徒ノ體育運動及其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此限ニアラス
警察官署ハ前項ノ届出ニ於テ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ認可ヲ拒ムコトヲ得

警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ハス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第八條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ於

テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲナスコトヲ得ス但シ第七條第一項但書ノ場合ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第九條 警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得

發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供スヘク集會ニ關スル事項ニ付尋問アルトキ何事タリトモ之ニ開答スヘシ

政談集會ニアラサルモ安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第十條 凡ソ集會ニハ戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニアラス

第十一條 凡ソ集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ教唆スルノ談論ヲナスコトヲ得ス

第十二條 會場ニ於テ故ヲニ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ涉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

一 集會ノ成立此ノ條例ニ背キタルトキ

二 第十一條ヲ犯シタルトキ又ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ
此ノ場合ニ於テハ全會ヲ散解セスシテ單ニ其ノ一人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

三 警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セス又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ

四 會衆騷擾ニ涉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セサルトキ

五 第四條第十條ノ違反者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其ノ命ニ從ハサルトキ

第十四條 第二條ノ届出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起

人ヲ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ會場ヲ貸與シタル者亦同シ

第十五條 第二條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發起人罰前條

ニ同シ

第十六條 第三條ヲ犯シタル者及第四條ニ背キ會同シタル者及其ノ之

ヲ制止セサル發起人ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ヲ犯シタル發起人ハ罰前項ニ同シ

政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起

人ハ本條第一項ノ例ニ照シテ一等ヲ加フ

第十七條 第六條ヲ犯シタル發起人及講談論議者ハ十一日以上六月以

下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第七條ニ背キタルトキハ發起人及教唆人ヲ拾圓以上百圓以

下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第八條ニ背キタルトキハ發起人及教唆人ヲ十一日以上六月

以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

其ノ之ヲ制止セサル發起人亦同シ

第二十一條 第十一條ヲ犯シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ

貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退

出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮

又ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 政社ニハ役員ヲ置クヘシ

政社ハ組成後三日以内ニ其ノ役員ヨリ社名社則事務所役員及社員名簿ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ
役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキ何事タリト
モ之ニ開答スヘシ

第二十四條 政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘ
シ但シ講談論議者及會場ヲ豫定シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初會
ノ開會四十八時以前ニ届出ルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス其ノ
届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十五條 現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察官官立公
立私立學校ノ教員學生生徒未成年者女子及公權ヲ有セサル男子ハ政
社ニ加入スルコトヲ得ス

第二十六條 政社ニ於テハ外國人ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第二十七條 政社ハ標章及旗幟ヲ用井ルコトヲ得ス

第二十八條 政社ハ委員若ハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置

キ若ハ他ノ政社ト連結通信スルコトヲ得ス

第二十九條 政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ
其ノ發言及表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ制規ヲ設クル
コトヲ得ス

第三十條 凡ソ結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ内務大
臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社スルノ
實アル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ
罰金ニ處ス

第三十一條 第二十三條ニ背キ政社ノ届出ヲ爲サ、ルトキ又ハ警察官
ノ尋問ニ答ヘサルトキハ其ノ役員ヲ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十三條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキ又ハ尋問ヲ受ケテ詐
偽ノ答ヲ爲ストキハ前項ノ例ニ照シテ一等ヲ加フ

第三十二條 第二十五條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ

貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十三條 第二十七條ニ背キ標章旗幟ヲ用井タル者及其政社ノ役員ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二十八條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員及委員チ一月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 集會ノ發起人又ハ結社ノ役員タルノ實アル者ハ一人又ハ數人又ハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス總テ發起人又ハ役員ノ責ニ任ス

第三十六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第三十七條 此ノ法律ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六月トス

第三十八條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限ニアラス

第二編 追加

第一 特別帝國議會召集令

朕帝國憲法第七條及第四十五條ニ依リ本年五月二日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集ス

御名 御璽

明治二十五年三月十八日

內閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

文 部 大 臣伯爵大木喬任

外 務 大 臣子爵榎本武揚

遞 信 大 臣伯爵後藤象二郎

海 軍 大 臣子爵樺山資紀

陸 軍 大 臣子爵高島勲之助

司 法 大 臣子爵田中不二麻呂

內務大臣 臣伯爵副島種臣
農商務大臣 臣 河野敏鎌

第二 特別帝國議會會期ノ詔勅

朕本年五月二日ヲ以テ召集スル帝國議會ハ四十日ヲ以テ會期ト爲スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十五年三月十八日

內閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義
文部大臣 臣伯爵大木喬任
外務大臣 臣子爵板本武揚
遞信大臣 臣伯爵後藤象二郎
海軍大臣 臣子爵樺山資紀

第三 前年度豫算施行ノ件

朕明治二十五年年度ニ於テ前年度豫算施行ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年三月十七日

內閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義
文部大臣 臣伯爵大木喬任
外務大臣 臣子爵板本武揚

遞	信	大	臣伯備後藤象二郎
海	軍	大	臣子備樺山資紀
陸	軍	大	臣子備高島綱之助
司	法	大	臣子備田中不二麻呂
內	務	大	臣伯備副島種臣
農	商	務	大臣 河野敏鎌

勅令第二十八號

明治二十五年年度ノ豫算成立ニ至ラサルヲ以テ帝國憲法第七十一條ニ據リ同年度ニ於テ明治二十四年度ノ豫算ヲ施行ス

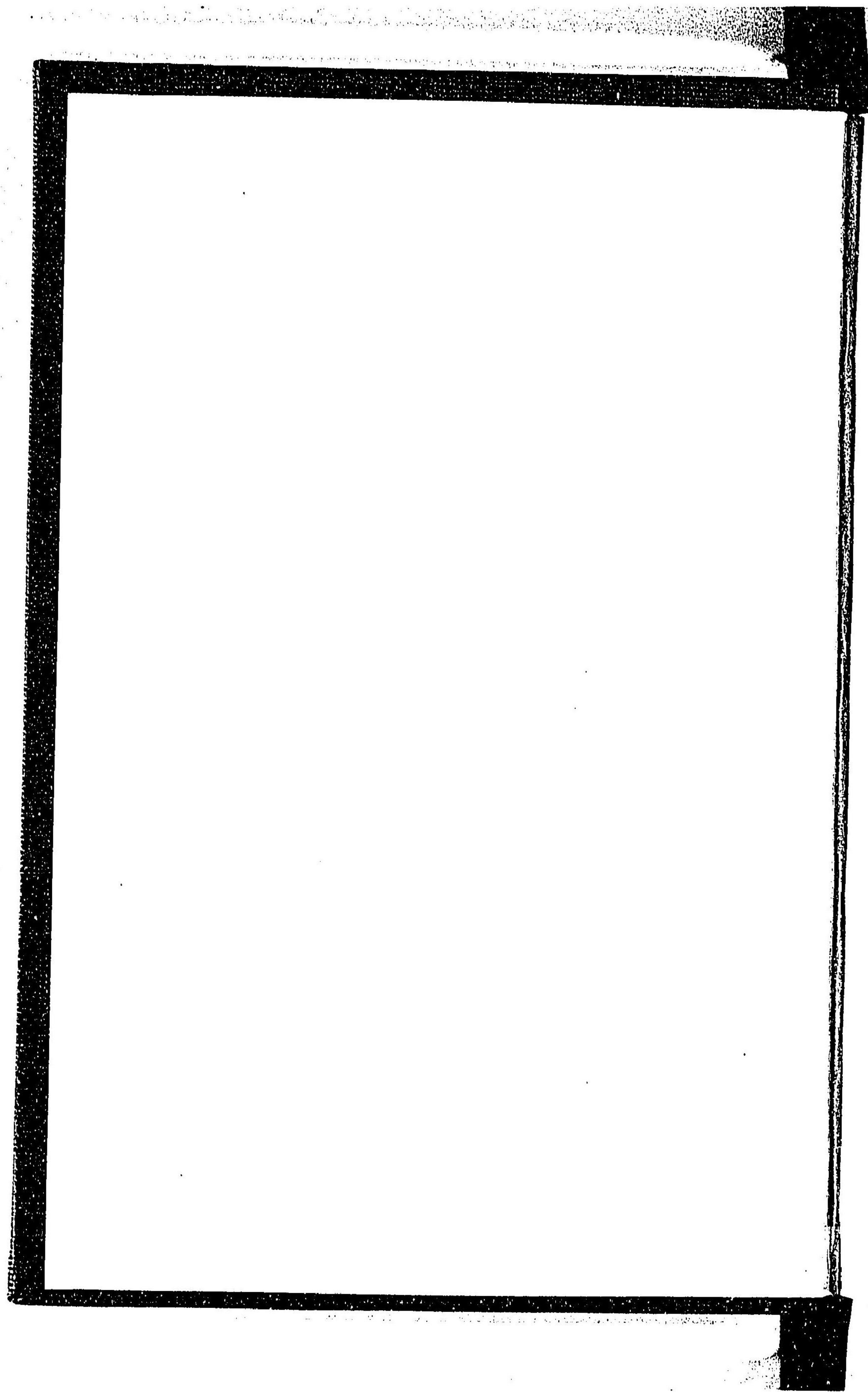
明治二十五年四月 印刷並出版

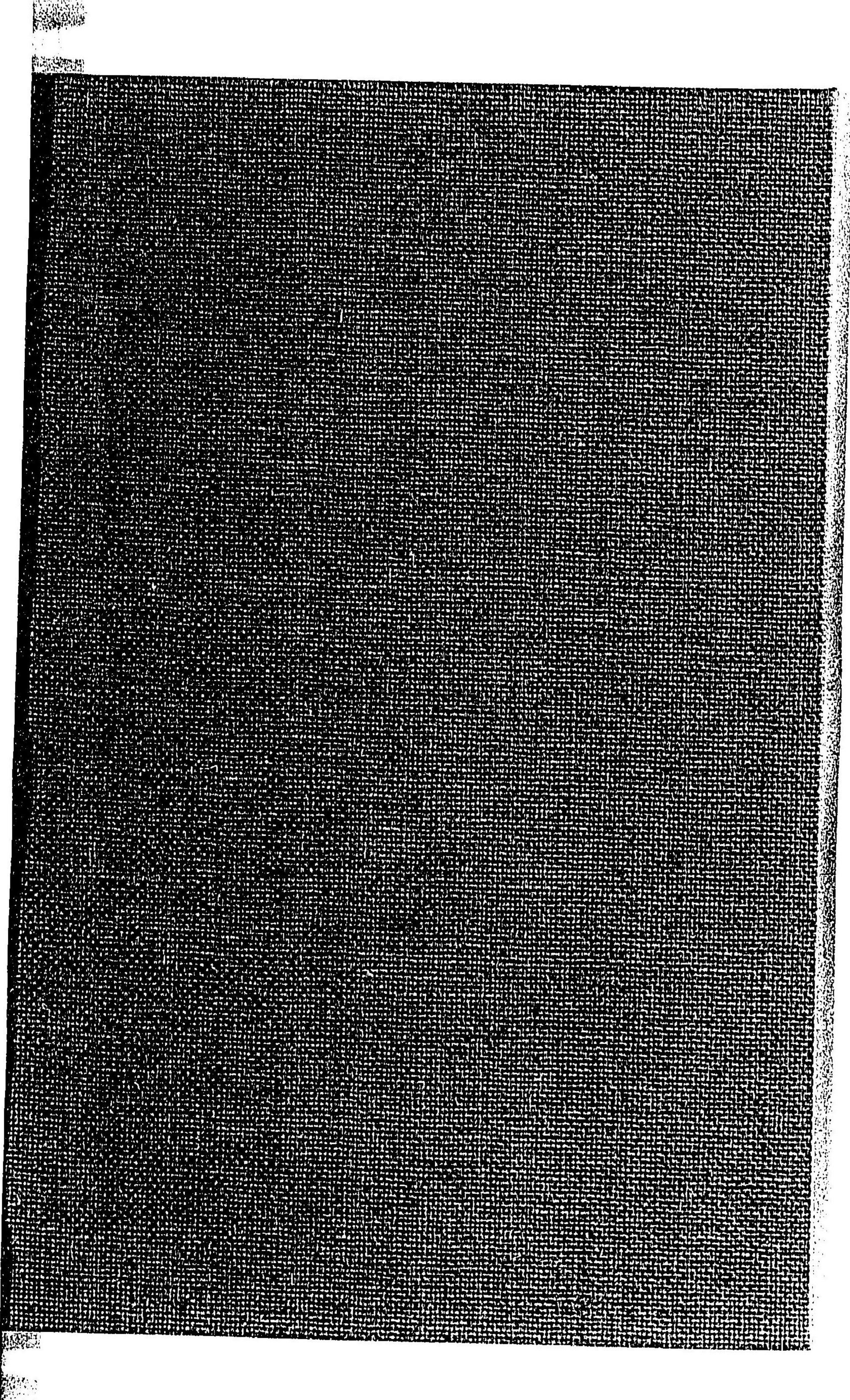
(不許賣買頒布)

著者兼印刷者 若松永胤
 兼發行所 大阪府大阪市北區若松町百十六番屋敷

印刷所 大阪朝日新聞社
 大阪府大阪市北區中之島三丁目十四番屋敷

477B-52





禁電子式複写

031111-000-1

CZ-5-027

法規

若松 永胤/編

M25

BBC-0817

